

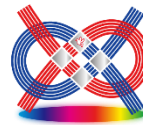
## 主イエスのご降誕、おめでとうございます！

♪闇に住む民は光を見た…。平和を求めている人、離ればなれになっている家族を思う人、空腹を抱えている人、人の優しさを求めている人、痛みに耐えている人、すべての人に救い主の光が輝きますように。

12月24日、バチカンでは聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」が開かれ、聖年が始まります。2025年の聖なる一年が、わたしたちの希望である主イエスとの、生き生きとした出会いの時となりますように。



**シグニスアジア会議  
盛会のうちに終了しました！**



**SAA2024** SIGNIS  
SIGNIS ASIA ASSEMBLY

**23-27 SEPTEMBER**  
TOKYO, JAPAN

Human Communication in the Digital World for a Culture of Peace

シグニスジャパンが昨年から準備し、今年最大のイベントであったシグニスアジア会議(SAA2024)が、9月に無事に開催されました。日本を含めて10ヶ国から70人余りの方が参加され、“Human Communication in the Digital World for a Culture of Peace” (デジタル世界で心を通わせる—平和の文化のために)をテーマとして、講演、討論が行われ、共に祈り考える機会となりました。参加して下さった皆様、クラウドファンディングを通して支えて下さった方々、ボランティアとして、またさまざまな形で関わって下さったすべての方々に心よりお礼申し上げます。

いつもですとプログラムの説明や個々の講演や発表のポイントを載せるのですが、それらは実施報告書に書いたもので、この「タリタ・クム！」の誌面では個人的な思いと感想を書かせていただきます。まず第一に大変だった、疲れた、でも楽しかった、実感として、何とかやり終えたという感覚だ。アジアの友人達に会えたこと、新たな知り合いができたこと、何よりも日本から多くの発信ができたことが嬉しかった。

初日の基調講演の酒井俊弘司教様のお話は新幹線とか外国人と日本人の性格に関するジョークもあり、和気藹々とした雰囲気だったし、午後のパネルディスカッションでは日本から青年2人、女性1人、壮年1人がそれぞれどんな思いで教会で仕事で活躍しているかを発表した。翌日には青年が日本紹介をし、被爆2世のシグニス会員が「映画で観る平和」と題してご自分の経験と平和への思いを、日本人監督ふたりが思いを込めて制作した2本の映画の予告編を観せながら粛々と語った。

その夜は中村哲医師の映画をどうしてもアジアの人に観て貰いたかった。薬や診療所だけでなく、アフガニスタンで困窮している人々は綺麗な水と働き場、学校、モスクを必要としていることを直感し、白衣を脱いで井戸や用水路を建設し、砂漠を緑の耕作地に変えた。上空では米軍の戦闘ヘリが飛ぶ中、現地人と一緒になって土を掘り、石の護岸を築き、用水路を完成させた。映画では一面の砂漠が一面の緑の耕作地に変わったシーンが2回出てきたが、その2回とも会場からは拍手が湧き起こった。人々が喜び、嬉々として働いている。ゲリラや傭兵になる必要はない。人々が帰ってくる。中村哲医師はプロテスタントだ。なのに学校併設のモスクを建設した。アフガニスタンの人々が最高に喜んだ。「戦争をしている暇はない。復興に汗を流す。」やはり心と心の繋がりが平和の原点だと教えてくれる。

アジアからの参加者の殆どの方が日本に初めて来た。しかし彼らは母国で新聞・雑誌・ラジオ・ビデオ等を自ら運営していたり、記者を含めたジャーナリスト達だ。言葉や文化・精神性の違いはあるが、日本を大いに楽しんでくれ、我々に感謝してくれた。少なからずトラブルも発生したが、それ以上に我々を幸福にしてくれた。彼らも幸福そうだった。最大の反省点は南アジア、東南アジア、東アジアの食事の好みの違いを十分に織り込めなかったことかも知れない。

(SAA2024 実行委員長 町田雅昭)

次頁にBangladeshのFr. Bulbulからの感想(Chat GPT 要約)を掲載いたします。全文はWebサイトに開示しています。[https://signis-japan.org/wp-content/uploads/2024/12/From\\_Fr.Bulbul.pdf](https://signis-japan.org/wp-content/uploads/2024/12/From_Fr.Bulbul.pdf)

## 初めての日本訪問：早いクリスマスプレゼント

Fr. Augustine Bulbul Rebeiro

(SIGNIS バングラデシュ会長/The Weekly Pratibeshi 紙 編集者)



Fr. Bulbul

長年夢見ていた日本訪問が、2024年のシグニスアジア会議とシグニスジャパンのおかげで実現しました。9月下旬、バングラデシュから4人の司祭が会議に参加しました。9月という時期はクリスマス気分には早いですが、日本に足を踏み入れた瞬間、期待を超える早いクリスマスプレゼントを受け取ったように感じました。この旅は個人的な節目であると同時に、ホスピタリティ、思いやり、愛、そして静けさの価値を深く学ぶ霊的な旅でもありました。

日本に到着すると、清潔な街並み、伝統と現代の調和、都会の活気、そして寺院の静けさに魅了されました。しかし、最も感動したのは日本人の温かさと思いやりでした。言葉の壁にも関わらず、歓迎の姿勢や親切な振る舞いで安心感を得ました。到着初日、駅の出口を見つけられず困っていた際、1人の日本人女性が助けってくれ、タクシーまで手配してくれました。この体験は、日本人の静かで謙虚な心に触れる貴重な瞬間でした。

また、キリスト教司祭として、日本文化の中で静けさに宿る敬意を学びました。日本滞在中、長年の歴史を持つ築地教会など、いくつかのキリスト教会を訪問しました。少数派(0.3%)ながら、深い信仰を持つ日本のクリスチャンコミュニティに感動し、自国のバングラデシュ教会の状況とも重ね合わせました。鎌倉では、ミサ後に信者と信仰や希望について語り合い、文化や言語の違いを超えて共通の価値観を見出しました。

日本で学んだ最大の教訓は、「静かな寛容さ」の強さです。日本人の親切心は義務ではなく、他者への深い敬意から生まれています。この訪問は、私にとって人間のつながり、もてなし、そして信仰についての理解を深める霊的巡礼となりました。日本で感じた愛や温かさは、クリスマスの本質である「私たちが結びつける愛」を象徴していました。今回の旅は一生の思い出となり、これからも私を励まし続けるでしょう。

## SAA2024 ミニ・アルバム



全体集合写真 (9/24)



Lee 司教 (韓国) の講演 (9/24)



晴佐久神父のご挨拶 (9/24)



シグニスアジア役員



Fr.アレンのワークショップ作業風景 (9/25)



受付準備風景 (9/23)

## SIGNIS ASIA ASSEMBLY 2024 に参加して

鈴木和枝（カトリック三島教会 / カトリック学校教諭）

今回、信仰とデジタルコミュニケーションと平和について考える機会をいただき感謝しています。私は2005年の復活祭に洗礼を受けました。その直後に所属教会で教会HPの担当をして欲しいと頼まれ、しばらくすると教会HPを担当する信徒たちの研修があるということで派遣されたのがSIGNIS JAPANのインターネットセミナーでした。それがご縁でときどきSIGNIS JAPANのイベントや研修などに参加させていただいてまいりました。インターネットなどを介した宣教とともに、カトリック学校で働く者として信仰教育のあり方をライフワークのように捉えてこの20年を過ごしてきたように思います。



### 世界コミュニケーションデー

今回の準備として、AIについて書かれている教皇様の世界平和の日と世界広報の日のメッセージを読んでおくということがありました。SIGNISに関わるようになって世界広報の日も意識するようになり、毎年のメッセージはメディアと宣教について考えるという自分の受け皿をもって読むようになっていました。しかし、このたび英語のテキストを読んだときに、まずその「世界広報の日」が“World Communications Day”という言葉であることを知り、これまでの私の受け皿は正しかったのだろうかと思いました。またこの「広報」という言葉についてですが、教会内外で広い意味を持って使われているように感じています。市役所から発行される「広報」といえば市の「ニュースレター」を指しますし、私立学校ならば「広報」は生徒募集の手段と言えます。「広報の日」の「広報」という言葉が日本の教会の信徒の中にどう受け止められているのか、「コミュニケーションの日」と理解していたのだろうかと思ったりもしました。とにかく私は「コミュニケーションの日」のメッセージと改めて受けとめて世界広報の日の教皇メッセージを読み直し、現代社会や現代のカトリック教会におけるコミュニケーションのあり方を考え、課題に向き合う自分のあるべき姿勢を模索していくように変化していきました。教皇様がキーワードにしていたAIやデジタル技術についてはもちろん取り上げましたが、学校現場における社会課題、コミュニケーションの難しさ、国際的なコミュニケーション(交流)によって与えられる恵みや環境問題への取り組みにおける信仰のまなざしなどを中心に発表しようと再構成して話をするに至りました。

### 女性としてのパネラー

もう一つ、今回私にパネラーの割り当てがあったのは「女性として」ということでした。私の最近の関心事として「エコフェミニスト神学」というものがあり、サマリーなどでは少し書いたものの、上述のとおり教育現場における社会課題とコミュニケーションのことを主なテーマとしました。短時間の口頭の発表ということもあり、エコフェミニスト神学は省略してしまいました。当日、パネルディスカッションの時間やその後の休憩時間に、エコフェミニスト神学についての質問を受け、本来「女性」としての割り当てだったにもかかわらず省略してしまったことに対し、後悔とお詫びの気持ちを持っています。

今、シノドスではカトリック教会での女性の立場などについて討議もされています。また環境問題においては、先進国の開発によるしわ寄せとして、途上国の女性は被害をより受けやすく、人としての尊厳が失われている現状があることが知られています。私の愛読書である『ラウダート・シ』にはその点あまり記載されていないという指摘をエコフェミニスト神学の研究者たちがしていることを『神学ダイジェスト』で知り、関心を持って学び始めている昨今です。また今回はアジアの各国から多くの司祭(男性)が参加され、参加者のジェンダーバランスが決してよいとは思いませんでした。そのパネルディスカッションの会場で女性の司会者のMelissaさんが私にエコフェミニスト神学について質問を取り上げてくださいました。私としてはそれをもっとチャンスにすべきだったと後悔しています。デジタル技術を取り巻く科学は環境問題につながり、コミュニケーションを考えていくにはジェンダーの問題は必須であり、平和を希求することは私たちの信仰に欠かせないことです。ですから私が割愛してしまったような事柄もこのような国際的な信徒の集まりで今後議論されていくべきことではないのかと思ったりもしました。もっと準備の段階で意向を深く捉えるべきだったと申し訳なく思っております。

### 希望ある世界のために

最後になりますが、今回このような素晴らしい会議が行われていることを、日本のカトリック教会でどれだけの方が知っていたのでしょうか。また、この会議の成果がどれだけアジアのカトリック教会を成長させていくことになるのでしょうか。この実りが信仰共同体の成長と世界の人々との希望的な歩みにつながるために、多くの方に知られていくことを切に願っています。それこそメディアの技術が上手に使われ、カトリックの信仰共同体が紡ぎ出す平和を求めると活動が世界を動かしていくべきだと思います。会議に参加させていただき、どうもありがとうございました。

★鈴木さんは、シグニス賛助会員としてこれまでも会議参加他シグニスの活動に関わってくださっています。今回は、パネラーとしてSAA2024に積極的に参加していただきましたことに深く感謝いたします。

## 第1回シグニス動画フェスティバル ご参加ありがとうございました！

昨年10月に開催された  
第1回イベントを皮  
切りに動き出した第1回  
シグニス動画フェスティバル。



参加者の皆様の投票でイベントのロゴが決まり、参加者の皆様とともにどんなイベントにしたいか、どんな動画を応募してほしいか、動画で宣教するとはどういうことか、そもそも宣教とは何か、などなど、さまざまなことを検討してきました。それらを経て、今年4月から動画の募集を開始し、10月31日の締め切りまでに計21本の動画をご応募いただきました。10月初旬になっても片手で数えられるくらいしかなかったため、締め切りの延長も検討していたのですが、半ばを過ぎたあたりから続々とエントリーがあり、インターネットチームとしても安堵しています。

応募作品はいずれも個性派ぞろい。聖書の解説から、ドラマ仕立ての作品や映画の予告風の作品、韓国から来た宣教チームが日本の若者に伝道する様子を紹介したものなど、実にさまざまで、動画を制作された皆様の情熱や創意工夫、あるいは眼差しのあたたかさなど、見る側の心を動かす不思議な作品ばかりです。

ご応募いただいた動画は、シグニス動画フェスティバルの[特設サイト](#)からすべてご覧いただけます。

今後は審査のステージに入り、入賞作品の応募者には賞金と賞品が授与されます。授賞式につきましては準備中ですので、続報を楽しみにお待ちしております。  
(インターネットチーム 高原夏希)

## 第49回日本カトリック映画賞 選考について

今年もまたカトリック映画賞を選考する悩ましくもあり嬉しい季節がやってきました。今、選考メンバーはカトリック映画賞に相応しい作品選びの最中です。もっとたくさんの映画を観てから選びたい。そんな思いがありますが、それが出来ない現実があります。それぞれ仕事や様々な事情があり映画を観る時間をつくるのはそう簡単ではありません。しかしもともとみんな映画を愛する仲間たち。忙しい時間をやりくりしながらも、よい映画との出会いを求める気持ちは変わりません。たまたま映画館で観たあの映画、オンライン試写で観させてもらったこの作品。カトリック映画賞に相応しい映画はどれだろうか毎回嬉しい悩みを抱えます。

カトリック映画賞は「キリスト教の愛の教えに基づく福音的な映画を選び、その監督に贈る賞」これは顧問司祭晴佐久昌英神父の言葉です。どの映画を「キリスト教の愛の教えに基づく福音的な映画」と思うかは人それぞれですが、「この映画の感動をみんなで共有したい」という熱い思いはひとつです。これこそがカトリック映画賞選考のポイントではないでしょうか。晴佐久神父が2017年度の授賞作『ブランカとギター弾き』の授賞理由で述べた言葉が今も映画賞選考で悩む時の支えになっていると思います。「…映画とは何かが、分かった気がした。それはたぶん、人間の美しさをみんなで共有する道具なのだ。」

人間の美しさをみんなで共有する映画の授賞式と上映会をどうぞお楽しみに！

(映画チーム 鈴木浩)

※2025年の授賞式&上映会は7月12日(土)を予定しております。

### 会員・サポーター募集

会員：一緒に活動して下さる方 個人会員 6,000円/年 団体会員 12,000円/年

サポーター：経済的に支援して下さる方 1,000円/口(何口でも)

ニュースレター「タリタ・クム！」をお届けします。ともに感謝ミサをいたします。

映画賞上映会、インターネットセミナーなど、ボランティアとして活動してください。

★教会、修道会広報関係の方も歓迎いたします。

<振込先>

銀行振込：三菱UFJ銀行 六本木支店 (店番 045) 普通 1679019 口座名：SIGNIS JAPAN 代表 土屋至

郵便振込：口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

\*他行から振込場合 銀行名 ゆうちょ銀行 店番 019 預金種目 当座 店名 ○一九店(ゼロイチキュウ店)

口座番号 0594547 口座名義 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

お申し込み、お問い合わせ 女子パウロ会内 SIGNIS JAPAN

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42 / [info@signis-japan.org](mailto:info@signis-japan.org)